

2023～2024年度クラブ目標

創立1986年

『みんなが楽しい ロータリー』



世界に希望を生み出そう

2023-24年度国際ロータリーテーマ

会長 佐藤 幸彦
幹事 村上 堅二



第1804回例会

令和6年5月9日 (18:30～19:30)

- ソング
 - 奉仕の理想
- ビジター
 - 元西郷村教育委員会教育長 加藤征男様
- スマイルBOX
 - 佐藤幸彦会長 (加藤征男先生、本日は大変ありがとうございました。石川RC、40周年記念コンペで優勝させて頂きました。)
 - 村上賢二幹事 (本日は加藤先生卓話ありがとうございました。結婚祝い、ありがとうございました。)
 - 大竹憂子会員 (加藤さん、卓話ありがとうございました。)
 - 松永紀男会員 (加藤先生卓話ありがとうございます。子供たちと一緒に、佐渡の海で一緒させて頂いた事、良き思い出です。)
 - 居川孝男会員 (加藤先生、本日は卓話ありがとうございました。暑い日、寒い日と続きますが、健康管理をして頑張りましょう。)
 - 齋藤孝弘会員 (会長、優勝おめでとうございます。)
 - 鶴丸彰紀会員 (お誕生日のお祝いありがとうございました。おいしそうなスパークリングワインで、楽しく吞ませて頂きます。)
 - 鈴木孝幸会員 (加藤元西郷村教育長様、本日は卓話ありがとうございました。私の能倉小学校及び西郷一中のPTA会長時代には大変お世話になりました。)
 - 吉野敬之会員 (加藤先生、本日は卓話有難うございました。久しぶりに御尊顔を拝しうれしく存じます。また結婚記念日のプレゼント有難うございました。)
 - 長克則会員 (加藤征男先生、大変すばらしいお話ありがとうございました。結婚記念日のプレゼントありがとうございました。スマイルさせて頂きます。)
 - 関谷亮一会員 (結婚記念品ありがとうございました。今月で結婚55周年になりました。)
 - 宮本多可夫 (本日は、加藤征男先生、お忙しい中、西クラブのために卓話していただき、誠にありがとうございました。)
 - 永野文雄会員 (ゲスト、加藤征男様、卓話ありがとうございます。4月20日の白河西クラブゴルフコンペで優勝させて頂きありがとうございます。)
 - 金田昇会員 (加藤先生、卓話ありがとうございました。楽しみにしております。)
 - 堀田一彦会員 (誕生日のお祝いありがとうございました。)

▶第1804回例会出席状況 (R6年5月9日)

Ⓐ 出席免除を受けていない正会員数	51名
Ⓑ 出席免除の適用正会員数	19名
Ⓓ 全正会員数	70名
Ⓒ Ⓐの出席者数	20名
Ⓔ Ⓐのメイクアップ者数	0名
Ⓔ Ⓑの出席者数	14名
Ⓖ = Ⓒ + Ⓔ + Ⓔ (メイクアップ補填後の出席会員数)	34名
Ⓕ = Ⓓ - (Ⓑ - Ⓔ)	65
Ⓖ = Ⓖ / Ⓕ × 100 (例会出席率)	52.3%

【今週の仮メイクアップ会員】

- 5月6日 石川RC40周年記念ゴルフ大会
佐藤幸彦、前原俊治、安部和夫、宮本多可夫、成井正之、長克則、金田昇、堀田一彦、運天直人、吉成茂

本日のプログラム

■会長の時間

佐藤幸彦会長



皆さん、こんばんは。まず初めに、本日の卓話をいただく先生をご紹介させていただきますと思います。加藤征男先生でございます。先程来、皆さんお久しぶりという形で皆さんお知り合いの方、多数いらっしゃるの非常に安心しております。後程、ご紹介があるかと思いますが加藤先生とは20数年前からのお付き合い私はございまして、白河第一小学校校長時代、私がなんとPTA会長をさせていただいて、大変当時お世話になった方ございまして、それ以来ずっと交流を続けさせていただいております。当ロータリーの中にも加藤先生と一緒にお酒を共にしたり、または加藤先生のご自宅まで押しかけてお酒をご馳走になったメンバーも多数いらっしゃるかと思いますが、本日は大変無理言って来ていただきまして卓話をお願いしまして、本当によろしく願いいたします。いつもご迷惑かけて申し訳ございません。さてロータリーの話ですが、先日5月6日「白河国際コントリークラブ」におきまして、石川ロータリークラブの40周年記念コンペがございました。総参加者数35名、その中で西ロータリークラブは10名の参加をいただきました。そこでなんとわたくしが優勝させていただきました。ありがとうございます。同伴者には大変恵まれて、同伴者は安部和夫会員、前原会員でございます。また、その中で長会員が準優勝、宮本会員がベストグロでございました。その他、金田会員、成井会員、堀田会員、運天会員、吉成茂会員、それなりにお疲れさまでした。引き続きまして、5月12日の今度の日曜日でございますが、石川「八幡屋」で40周年の記念式典にも出席予定でございます。行かれる方は是非よろしく願いしたいと思います。また続きまして、第2530地区ラーニング委員会より専門分野講師一覧表が送られてきました。その中で、RYLA研修で中目会員、資金推進ポリオで諸橋会員が講師として紹介されましたので、是非今後とも頑張ってくださいと思います。また一つ皆さんにここでお知らせがあるんですが、佐川京子会員の身内で不幸がございまして、娘さんがいらっしゃるんですが32歳なんですが、嫁いでいらっしゃるんですが胃がんのため先月逝去されたというご報告をいただきました。まあ、お嫁に出してということで地元新聞には載らなかったのですが、嫁ぎ先より分骨をしてもらって、ロータリーとしてもご礼状を出すと共に、後程相談なんですが代表で

私と幹事、また何人かでご焼香に行く予定でございますので、包まれる方は私か村上幹事まで届けていただければと思います。後程、皆さんにファックス、メール等でお知らせ、バラバラで行くとちょっと京子ちゃんも戸惑っちゃうということですので、代表で私と村上幹事とで行ってきたいと思っておりますのでご了承いただきたいと思っております。さて、私の任期は来月まででございますが、次年度、阿部・十文字年度も動き出しています。スムーズに引継ぎできるよう最後までしっかりとやりたいと思っておりますので、最後まで皆様のご協力をよろしく願いいたしまして、私の本日の挨拶といたします。今日はよろしく願いいたします。

■幹事報告

村上堅二幹事

- 白河ユネスコ協会会長 小野利廣：令和6年度白河ユネスコ協会総会の開催について通知
- 矢吹RC会長 横山栄子 創立40周年記念式典実行委員長 矢内宏：矢吹RC創立40周年記念式典のご案内
- ガバナー 右近八郎：「令和6年度能登半島地震支援金」御礼とご報告
- 日本事務局財団室：財団NEWS 2024年5月号
- 福島グローバルRC 会長 江尻修、幹事 大寺正晃：福島グローバルRCからのご案内
- 白河赤十字奉仕団 委員長 安澤荘一：赤十字奉仕団への賛助について依頼
- 日台親善会議 総裁 吉田正俊：第9回日台親善会議札幌大会開催に於けるご理解とご協力をお願い
- 地区ラーニング委員長 芳賀裕：「専門分野講師一覧」と「ラーニングセンターコース一覧」のお知らせ
- 早川ガバナーエレクト事務所：ネームプレートについて地区研修・協議会について

■各委員会報告

○親睦委員会

山縣英寿委員

【結婚記念日】

関谷亮一会員、村上堅二会員、吉野敬之会員、鈴木孝幸会員、長克則会員

【誕生日】

前原俊治会員、鶴丸彰紀会員、寺島由和会員、松永紀男会員、堀田一彦会員、運天直人会員、根本あゆみ会員、山田顕一郎会



員、石川格子会員

○雑誌広報渉外委員会

松永紀男委員長



皆さん、こんばんは。お手元にごさいますよね。今回2週目ということで、おそらく皆さんもう既に目を通していただいているかなと思いますけども。何度か申し上げてますけども、ネットのほうで今パスワードさえ入力すれば見ることができるようになってますので、是非事前に読み込みしていただければいいのかなと思っています。まず、横組みから今日はいきたいと思います。横組みの8ページ。「RYLAってなあに」ということで、かなり詳しく説明がされております。内容に関しては、よくよく詳細読み込んでいただければいいのかなと思います。私も実はこれを見て、なるほどこういう取り組み、こういうスキーム仕組みなのかなというのを、実感としてなんとなくこう理解できたかなと思っています。細かな事例等々含めて内容詳細記入されておりますので是非ですね、中目さんのほうもこちらのほうの講師ということで、県の指導員ということですね。取り組みをされるということなので、今後のことを含めまして我々全体としてRYLAというものに対して、共通意識を持ちながら取り組み進めていくことができればいいのかなと感じておりますので、ひとつよろしく願いいたします。続きまして、その次の項目で今度「もっと知りたいパキスタン」ということで、14ページから。こちらのほうは、内容に関してはパキスタン云々かんぬんの内容書いておりますけども、ポリオ撲滅についてのパキスタンでの取り組みということで記入されております。大昔なんですけども、パキスタンからアフガニスタンにちょっと旅行といいますか、アジアの方を放浪していた時期が私ありまして。パキスタンのペシャワールからカイバル峠抜けて、アフガニスタンのほうに抜けたことがあるんですけど。大変ここに書いてある以上に、いろんな意味でヘビーな場所とか、部族地域とか、政府が介入できないような地域がこの地域というのは結構あって、部族地域というんですけども。そんな中で、医療とかいわゆる政治だとかそういう部分とは大変かけ離れた地域だったというのを記憶しております。ただ、もう何十年も前の話なので、その時の話が今適用されるかどうかというのはわかりませんが、まあ当然、ポリオのほうも一回絶滅宣言が出たような出ないようなという形だったかと思うんですけども、また増えてきているという現象もあるようなので。これ世界的に、いわゆるロータリ

ー全体としての取り組みの一つですから。なお、諸橋さんのほうはこちらのほうは諸橋さんのほうが講師になってるということで、こちら我々西クラブから講師を出してるという共通認識のもとに、もうちょっと意識を深めていくことができればいいのかなと考えております。次、縦組みの9ページ。宮崎アカデミーロータリークラブの女性会員ですね、取り組み活動について書かれております。やはり、これ前から後ろから読んでもですね、やっぱりキーワードとしては例えば子供でありますとか、青年、子供、それから女性といったものがキーワードになって『ロータリーの友』という冊子がどうも仕上がってるということもあるように見受けられますので。今後そういったことを軸に、我々も活動の柱として取り組みしていくことができればいいのかなと思っておりますし、私もそういう意識で取り組んでいきたいと思っております。

■本日のプログラム

○ゲスト卓話

青少年奉仕委員会

齋藤孝弘委員長



皆さん、こんばんは。会長が大変尊敬されている先生を、今日は会長の肝いりで呼び寄せさせていただきました。先生をちょっとご紹介させていただきます。加藤征男先生、1942年6月23日生まれで、もうすぐ82歳になられるかと思われます。福島市のご出身。西郷村村立西郷第二中学校を皮切りに、矢吹町立三神小学校、白河市立第一小学校の校長を歴任されまして、退職後は西郷村教育委員会教育委員長を務められました。2016年には、瑞宝双光章を受賞されました。ちなみに、瑞宝双光章は公共な職務に複数年度ご従事され、難易度、責任の程度を評価されまして最良の職務を果たした方に贈られる受賞されると聞いております。主に、保護司、小中高の校長先生に送られるということになっております。近年は、人口の減少がありまして様々なことが変化が起こってきていると思います。生活もそうですし、子供たちの教育なんかのあり方もどんどん変わってくる世の中になると思います。今までのご経験をここでお話いただきまして、ロータリークラブでも青少年の育成にどう携わっていくかという糧にしたいと思っておりますので、本日はよろしく願いいたします。

○元西郷村教育委員会教育長

加藤征男様



新緑の素晴らしい季節になりました。こんばんは。私をこういう会にどうぞおいでなさいと誘っていただきまして、誠にありがとうございます。心から感謝を申し上げます。今ほどお話ありましたように、会長さんの佐藤幸彦さんは私、教職38年務めさせていただきましたが、その学校教育の最後の学校であります白河市立白河第一小学校の校長を3年間務めさせていただきました。その折に、幸彦会長に3年間丸々会長としてお世話になり、万般に渡ってご指導いただいたものでございます。校長とそのPTA会長さんがお互いに丸々期間を一緒にできるというのは、そうはあるようでないですね。そういう意味で大変感謝を申し上げております。また、当時の副会長さんは、片岡ガクシュウさん。そして、中目さんでございました。白河一小はちょっと伝統的な事を守っている学校でありまして、新任校長が来ますと白一小って高台の素晴らしい趣のある校舎なんです。階段を上がって行かないと校舎に行けません。その校門から階段を上がって校長室までは、児童会長が新しい校長を先導して校長室に連れていってくれる。そういう学校であります。校長室に行きまして、幸彦会長さんはじめ、副会長さん、そして前のPTA会長である鈴木清次会長さん。そして、田口病院の田口同窓会長さん。多数の方にお迎えをいただきまして、本当に光栄でしたし、とても緊張したのを今でも覚えています。そこから緊張しっぱなしのスタートを切ったんですが、幸彦会長さんという方は素晴らしい会長さんで、用事がありまして行田市に行くことになりました、2人で。車を運転していただいて同乗していました。会長さんがスタートすると間もなく、高速道路に乗った頃でしょうかね。お話がありました。「校長、私ね、高校の時からバイクに乗ってるんです。何度か校長室に呼ばれて、そのことで注意を受けたこともあります。そういう男ですから、よく承知しておいてください。」というのが会長さんのお話でありました。えー私、こういう方と出会うのはなかなかないということを感じた次第です。楽しくその後乗せていただきながら、さきたま古墳とか用事の事を済ませた後、そういうとこに寄りたりして帰って来た思い出があります。先程お話していただきましたが、その後も何かあると会長さんにお世話になりながら今日まで来ました。過日、今日の日の事のお話が突然ありまして、そしてよろしくお願ひしますというお話でありました。私も公職を離れてもう10年にもなりますので、えっと思いながらおり

ましたが、あのようにしてお世話になった会長さんからのお話ですから断ることはまずない。で、わかりましたということでここに立ってますが、果たして何の話をしたらいいのか。時間も20分程ということでしたので、20分に見合う事、何が話せるんだろかなということでもおりましたが、難しいことは抜きにして、また教育の事は現職の方がおられますから、余計な教育論とかそういうのは迷惑をかけると思いますので、そういう話はなしとさせていただきます。じゃあ何話すのということになりまして、これは皆さん共通に私もそうですが、人生を歩んでいるのでその人生の歩みの中で何が一番宝物ですかというふうに言われた時に、私は真っ先に思うのが出会いです。出会いというのが人生その人それぞれの人生を作っていくんだというふうに思っています。そういう事を与えられた時間の、およその中で話したいと思います。題は「出会いに感謝」なんです。ものすごくお世話になった感謝それぞれなので、大を付けさせていただいて「人生に大感謝」ということで、しばらく時間をいただきたいというふうに思っております。先程来、お世話になった方々がこの中に沢山いられて、お世話になった当時の顔であの当時ということでご挨拶お互いにさせていただいたです。その時その時、本当にありがたい貴重な出会いをさせていただいておりますし、その出会い方はほとんどがお世話になった出会いです。この出会いは後で終わりのことで申し上げますが、自分で選べるか選べないかというのはすごく大事なことのはず。皆さんも出会いを私より数多くされてると思いますが、その出会いはどんなふうにしてスタートを切ったのか。その中でも、選んで出会ってきたのか。いやいや、出会いなんか選んでる場合じゃない。出会いは偶然にその時にやってくる、出会う、そういうものだというふうに振り返ってこう考えてみると思います。その選べる出会い、選べない出会いというのが、それぞれ頭の中に思い浮かべていただいて、選んで出会ったという出会いはどんな出会いかなと自分の場合にはと思い浮かべていただきたいと思ひます。10秒、間を置きますのでどうぞ。選んだ出会い思い浮かびましたか。挙手していただけますか。学校と違って指名したりしませんので。はい、ありがとうございます。じゃあ次に選べない出会い。選べないで出会ったんだが、私にとっては大事な出会い、そういう出会いですね。そういうのをまた10秒。はい、ありがとうございます。思い浮かびましたか。じゃ、また挙手。はい、ありがとうございます。こっちはほうが多いです。そして、いっぱい浮かんだと思ひます。不思議な

んですよ。選べない出会いのほうが多いんです。私がそうですから、皆さんもそうだと挙げてくださって、ああやっぱりなというふうに自分の事を含めて思いました。その中から、今日は時間の関係もあるので私の場合の選べない出会い、選んだ出会いを幾つか申し上げて、大感謝してみたいというふうに思っています。真っ先に出会ったのは、皆さんどなたです。今日は人のことに集中して。出会って物や何やいっぱいあるんです。場面や時や事柄やあるんですが、皆さん、両親。私の場合も両親なんですが、特に母親です。私が意識しないうち、お腹の中で出会ったのも母親。そして、生まれた時に顔もわからない、名前ももちろん。少し時間が経ってまだわからないんだけど、じーっとその人の顔を見たのも多分母親です。父親は案外こういう時、影薄いんですよ。努力はしたんですよ、父親はね。でも、母親なんです、不思議に。私も母親です。大感謝の一番目、母親についてちょっと話をさせていただきます。私は1942年、昭和17年に北京で生まれました。父の仕事の関係、家族で住んでいたからです。兄弟6人の末っ子に生まれました。兄、姉はやっぱり中国で生まれたのが半分くらいいるんですが、場所が北京ではなくこう分かれていたりしています。1歳半の頃ですね、日本に戻ることになりました。日中戦争に引き続いた太平洋戦争が厳しくなってきた。で、もう日本人になるだけ早く帰った方がいいよという雰囲気になったということで戻りました。父親と兄は事情があって残る。母親と5人の兄弟が、母親が連れて日本に戻ってくれました。私は背負われて、すぐ上の姉とその上の兄は両手に繋いで、その余ったのは更にその兄弟と手を繋いで。厳しい帰国だったです。山崎豊子さんの『大地の子』という小説ありますが、読まれた人沢山いると思いますが、あの情景です。あちこちで検問があって、対応次第ではこの子を残すところまで追い込まれるようなそういう状態の中で、舞鶴に引き揚げてきたと聞いています。3歳くらいまでは記憶がほとんどないですよ。私はその情景は今、聞いて言っていますがありません。でも、途中で離れることなく連れてきてもらったことに本当に感謝をしています。その感謝が大感謝になったのは、その後のことです。日本に母親は自分の実家、福島市の亘理という所に花見山に行く途中にお寺があります。そのお寺の娘だったものですから、そこに子供を連れてみんなでお世話になって引き揚げたということですかね。普通、引き揚げというと戦後の事を言うのが多いので、帰って来たということでしょうかね。ところが、父親が帰ってきて食糧事情とか非常に悪いので一

生懸命寺の為とか何か働いたそうです。折悪しく体調を崩して、間もなく亡くなりました。私が3歳の頃です。ほとんど記憶がありません。膝の上に抱かれて顎の髭でなんかゴシゴシとされた感触、これも定かでないんですが自分の父親という思いのことなんですかね。なんとなく覚えています。お葬式の時に来てくれた方々が、ほら見てるよ、あの山、あそこを今お父さんがこう歩いていくんだなんていうことを言ってくれたのも、なんとなく覚えています。その後です。母親はいつまでも実家にお世話になるわけにいかないの、寺を出る覚悟をし子供を連れて、それで引き揚げてきた人たちがこう住んでいた商店街に手を挙げて八百屋を始めようとしてました。実際、始めたんですね。お寺の娘でそうゆうなことに関わったことない母ですから、もう結果は見えています。たちまちのうちに倒産。そして、家族がもっとなかなか苦しい思いになっていきます。母親は子供育てのために、NTTの電話の交換手に入れていただいて電話交換手、生計の元です。それだけでは足りないの、夜、洋裁専門学校に通いましてミシンの技術を身につけて、そしてデパートとかそういうところから頼まれた仕事、自分ができるところを引き受けて夜中まで働く。電話交換に行く。残された私みたいな小さい子は姉が一生懸命面倒を見る。そういう生活をずっとしてきましたね。そうやって子供たちを本当に頑張らせて育てていただいたんです。そして、その母親が私が小学校、中学校、高校と大きくなって行きまして、その上の兄は私の6歳上でどんどん成長。そのもっと上の長男は13歳違いですから、もっと早く成長して。やってくるのは学校のことです。母親は余裕も何もなかったが、教育は今後必ず必要になるということをなんか感じたんですね。どなたに聞かれたのか、自分で思ったのかわかりませんが、親戚の人からも後で私言われましたが。何であんな状態で学校にやるって母ちゃんが言ったんだべねって、何度も聞きましたので、周りはそう思ってたと思います。でも、学校にやる。男の子は大学まで、女の子は高校までと自分で決めて、そして本当にそれを実現させてくれたんです。長男は医者になりたいと言ったようで、最初県立の医大に行きましたが、行ってすぐ私の行く所ではない行ける所でないということで受けなおして、期限が許される中で千葉大学の薬学部に移り大学を卒業。次男も大学にやっていただいて、最後に私。やる時に大学に行っていたいよという言葉も母が言ってくれたんですね。私は大学にもう兄たちも行って、姉もあれだし、そう行けるとは思ってませんでした。通ってた高校が福島高校で進学校でしたので、周りはみんな

大学に決まっています。その時に言われた言葉がそれでした。本当にありがたい言葉でした。行っていいんだなということです。その代わりというか「ただね、家から通える所ね。」とこういうふうに言われたので、福島大学の経済学部か、当時のね。それから、教育学部かどちらかです。私は成長するそこまでずっと素晴らしいことに、担任の先生はじめ先生方に、校長先生はじめ教員の皆様方に友達に面倒みられ助けられ応援されて育ちましたので、経済とは思いませんでした。教育を選びました。今は教育学部なんですけど、当時は学名学部と福島大学は言っていました。その大学に通っていいよと言われたので、本当に嬉しかったです。そこまでしてくれた母親に感謝では済まない。大感謝です。そういう意味で、最初の出会いは母親ということになります。次です。次の感謝ですが、昭和40年4月に教員になりました。西郷第二中学校でスタートしました。学校は辞令一つで決まる。就職先というか、勤め先です。選んだ出会いではありません。選べない出会い。でも、西郷第二中学校に参りまして校長先生が駅に向いてくれていて、バスに乗って西郷二中のほうに参りました。原中という所でバスが止まって校長先生と降りましたら、今も残ってますが桜並木がある所です。いやーすごくいい学校みたい。そして、真正面に村の歴史民俗資料館というのが建っています。趣がすごくいい建物です。ここだと思って、白二中のほうから行ったので最初は白二中だと思ったんですが通り過ぎたので、ああ違うんだなと。それで行きまして、その桜並木の真正面の歴史民俗資料館でもなかったんですね。その後ろをぐるっと回った所に、今半分出来上がって新しい校舎が建っている時でした。もう校舎が横に建ってまして、昔は軍馬補充部の厩舎だった所ですね。その学校に行きました。一年間はどんなふうにするのか全くわからないので心配してましたが、心配いらぬよと。一年生の担任になってもらって、学年主任の先生が素晴らしいから何でも学びなさいと校長先生に言っていたら、出会ったのが金沢先生という先生です。テニスで有名な先生で、全国優勝を子供たちに何度もさせた先生です。その先生の学年に入れていただいて、担任とはどういうこと、指導するというのはどういうことを本当に教えていただきました。ありがたかったですね。そこで子供たちと最初の出会いをして、3年間持ちあがりの担任をそこでさせていただくことになりました。農業祭というのが11月にありまして、その農業祭の時にいやーこの子供たち凄いいつというのを見せてもらいました。何だったのかというと、今だとおそらく新聞出るほどの話題

になると思うんですが。農業祭の時に作物とか自分で作ったので、それを使って農業祭をします。その時にプラスしてもち米ね、餅つきの。それと、ニワトリ二羽。二羽いるから二羽鳥ではなくて、ニワトリ二羽です。それを各学級に配るんです。私はそういう事を見たこともないし、したこともない。どうやんのという。学級会開いて、黒板でこうやるんです。あんちゃんから聞いたり姉ちゃんに聞いてたので、子供のほうがよくわかってます。ニワトリ係を決めるのが最大の難関でした。つまり、ニワトリを肉にするまで子供がやるんです。それを子供たちがちゃんとやってのけるんですね、一年生の。学級会で決めるんだが決まりませんね。でも、最後には決まるんです。そして、先輩から聞きながらお湯を沸かして肉にする。その肉を使って片方の餅ついた餅のしる、そういう事をできる子供たち。びっくりしました。俺はこういう子供たちの相手をする教員なんだということに、うんと驚きを感じながら過ごしました。宿直制度というのがありまして、その頃は学校に教員が泊まるんです。そうすると、先輩の先生方部活動が終わって宿直室とかに來まして、芋をやったりしながら最終バスが7時なんですね。7時のバスまで芋をやったりして、じゃあ帰るよと帰っていかれる。私は校長先生に荷物、布団とかを学校に送りなさいと言われていたんです。送りましたが、ほとんど毎晩宿直。でも、校長先生は後で聞いたらそれはかわいそうなのはよくわかっていたよと、でも新しい所で給料も少ないのに暮らすのには宿直手当というのがあったから、それを有効に使うために。また、先輩はあなたに感謝する。家庭に帰って寝た方がいいんだから。もういいことだらけなんだという話をしていただいて。まあほとんど宿直でした。でも、これもまた3年生の子供たちが宿直の先生の所に夜遊びに行くのが楽しみだったんですね。そういう伝統があった。早速、遊びに來ました。歌詞カードを持って歌を歌いたい人は歌う。本を出したりしてね。お母さんが先生夕飯食べる時にちょっと食べてもらえるかと言って、おかずまで作って持たせてくれたりもしました。お母さんには何て言って來たのと。先生に勉強を教えてもらうんだって來たんだと言うから、じゃあ、勉強すんのかって言ったら、そういう事じゃないって、遊びに來たんですね。そういう事をして、ほとんど毎晩子供たちと10時近くまでですかね。家の人がなく迎えに來てくれ帰っていった。何を言いたいか。子供には、思っている以上の心と力があるんだということです。それから、子供はやればすごいことが出来るんだと。誰のために。自分一人のためにニワトリ二

羽、肉にしませんよね。俺たちの学級の為です。そういう事を子供たちはよく小さいのに知ってるんです。そういう出会いをさせていただいた、子供との出会い。本当にびっくり仰天の感謝です。大感謝の二番目は子供たちです。その後、私は西郷第二中学校でもう一回の子供たちと、次の子供たちと、卒業させての次ですね。の途中で3年目に、校長先生が僻地経験というのが教員に課せられていまして、若いうちに早くやれと。それが後になってすごく役立つというふうに思ってたさったらしく僻地経験を川谷中に、あんまり離れてません。そこで済ませろという事を配慮してくださって、川谷中に行きました。そこで巡り合ったのが、今度は3回目の担任の子供たちです。今、年齢でいうと50~60くらいになりましたね。開拓をお父さんお母さんがやった二世ですから働きます。仕事もしっかりできます。そして、数少ない人数、拡大した兄弟姉妹のようです。とても仲がいい。そして、勉強することがあんたたち自身の次に繋がるんだよということを親に徹底的に言われている。そういう子供さんたちでしたので、学習意欲が素晴らしく本当によく勉強して、そして男女合わせて27人の学級でしたけど、全員が高等学校に合格して入っていきました。京都大学にいずれ行った子供も中に含まれています。教員になった子供も二人います。今も一人は校長を終えたところ。一人は、その続きを裏磐梯にある星を覗いたりいろいろするする施設、その館長として頑張っています。子供たちは可能性を持っている話、先程しました。学ぶ可能性もどこにないと勉強できないはない。場所はもちろん便利などこでやったほうがいいですよ。でも、それに代わる努力さえすれば出来るんだということをその子供たちは見せてくれました。出会った子供たち。私、担任した子供が200人ほどいます。教員としては少ないほうです。途中で教育行政をちょっと行ったりいろいろしたもんですから。私と同期の人たちに比べると、担任した子供はちょっと少なめなんです。でも、私にとっては宝。私にとってはそうやって指導力もない、何もない若い教員であった私をむしろ学ばせてくれた子供たちに大感謝です。三番目の感謝です。時間がないので端折ります。その学校で出会った教頭先生です。どこがというと、私は中学校に赴任しました、辞令のお話しましたが、その教員の配置は辞令で決まるんですけど。中学校に行くには、中学校の教員免許がないと駄目です。高校に行くには高校の教員免許。私は中学校、高校過程を福大で学びましたので中高の教員にしかねない。で、その西二中、川谷中と出会った教頭先生が同じでした。でも、小学校の教育やってみ

たいんだと。俺はやるぞと。どうやってやるんですか。通信教育で頑張る。お前若いから、俺より若いんだからやれないはずがない、一緒にやるぞと。私の同意もない、やるんだぞとということ。わかりました。で、一年で頑張り通したんです。競争する如く。一教科を取るのに小論文を2通出す。すると、合格と帰ってくるんですね。うまく取れば試験を受けられるんです。五教科分ためて試験を受けに行くんです、東京まで。電車賃もかかるので五教科まとめて取る。そして、福大、大学の時に取った単位が共通で有効な単位なんです。中学校と小学校でも、心理学とか共通するものは認めてもらえる。それで、一年で取れたんです。取るぞとってくれたその教頭先生。そして、短時間で取れたその頑張り。みんなその先生に出会わなければ、私は小学校の免許状は取れなかったはず。取る気もなかったかもしれない。部活動をやったりして、とても楽しい時を過ごしてましたから。でも、その事があって今に繋がっています。小学校の免許状を取ったんだから、小学校で経験してみろ。棚倉小学校に行くことになりました。3年間行ってきました。中学校と小学校は教え方が違うんです、根本的に。何違うの、一番違うのは中学校は言葉が通用するんです。あれやれ、これやれ、指と言葉あると子供たちは動いてくれる。小学校は必ずしもそういかないんですね。80パーセントの子供は、私行った時に持った子は3年生でした。中学校卒業3年生させて、小学校の3年生持ったんだから、うんと開きがありました。言葉で一番わかったのは外でやる校外学習。理科の授業とか、そういうの外でやる時があります。説明をしながら植物の学習とかしてますが、集まれという時間が来ます。時間割りどおりに次の時間に間に合うように行くわけですから。集まれやると80パーセントは集まります。ところが、20パーは駄目なんです。そのうち、大きい声をだんだん出すと10パーが来ます。残りの10パーは人数でいうと3人ほど。びくともしません。もう、そこにいる虫なら虫に夢中。それから、石なら石に夢中。全く。もう、しょうがないから首っ玉捕まえて、こう集めて来るしかない。それを見ていた隣の学級の先生、女性の先生。経験豊富な先生が放課後訪ねてきてくれて「先生ね、あれでは駄目だわ。子供はああやって呼ぶんじゃない、集めるんじゃない。」「どうやるんですか。」「口で言ってもなかなかだから、今度また外でやる時、私の様子見てて。」3年の副主任の先生が隣の学級で次の機会がやってきました。そしたら、見るとやっぱり似てんですよ。言う事聞かないのがいるんです。でも、集めるんですよ。おい、あーあーと

こうじゃないんです。「あらあらあら、何これ、あらあらあら。」なんて言う。そうすると、子供は虫だったのが「あらあら」にひかれて、もうやって来ます。やって来たらしめたもの、自分の所にこう置いて離さない。そうやって完了。指導力というのは、そういうものなんだというのを教えていただいた。小学校に行った事が何ほどありがたかったか。そして、その小学校その後私は白河二小で4年。そして、只見の朝日小に3年。そしてまた、白河二小に戻ってきてという小学校の生活が始まって。教頭は小学校、校長は三神小学校と白河一小でさせていただきました。教員生活の今度は逆にかなりの部分を、小学校の子供たちと過ごすことができました。自分としては思ってもみなかったことです。最初に川谷で出会った西牧という教頭先生の「俺はやる。お前もやれ。」というこの言葉が繋がったということです。今、お話してまいりましたこの三つの事。選べない出会いなんですね、みんな。でも、選べる出会いもあるんです。どういう出会い。最大のもは結婚ですかね。皆さん、選びましたね。選ばなかった人。選んだ。それは最高のものですよ。だから、選ぶと自分の思うとおりにいけば最高。でも、選ばなくても、選べなくても、時には選んだ以上の出会いになるということを、実感させていただいて勉強させていただきました。私は82歳に間もなくになります。もうこの先ですね、82ですから。まあ、欲をかって90までは何とかと思って、そこを100パーセントとすると、就職までが25パーセント使いました。結婚で30パーセントまで使った。教員生活で仕事して66パーセントだったかな、使いました。80歳超えまして、80数パーセントまで。残りもう僅かです。10パーセント残ってっかどうかです。残ってませんね。その人生をこれから今までと変えて何かしようとは思ってません。何をしたいと言ったら、出会いをしたい。また出会える、その出会いを選べない出会いでもいいから。自分で選んだ以上に、もしかしたらなるような出会いにしてみたいというふうに欲を張ってます。そう思わせていただいた出会った方々に感謝。それも大感謝です。今日は時間が限られた中でのことでしたが、出会いに大感謝ということで三つお話をさせていただきました。時間が来て、あと3分くらいしか残ってないはずですね。オーバーしてる。大変失礼しました。35分としちゃってるだけ、あっ25分、失礼しました。申し訳なく心からお詫びします。貴重な時間、誠に申し訳ありませんでした。オーバーしましたので、一つだけちょっとお話させてください。うんと嬉しかったことがあります。福島市の第四小学校に、学びなおしをする夜間学

校が出来ました。待つて待つて待つて、みんなが待つて出来たんです。おそらくここにも出来てきます、これから。楽しみにしたいと思ってます。そこでまた新しい出会いが始まると思います。本当に出会いに感謝して、オーバーした分を心からお詫び申し上げまして話にさせていただきます。申し訳ありませんでした。



石川RC40周年記念コンペ

5月6日(月)

順位	競技者名	順位	競技者名
優勝	佐藤 幸彦	19位	菅野 欣吾
準優勝	長 克則	20位	石井 勝茂
3位	内海 友助	21位	中島 優
4位	宮本多可夫	22位	前原 俊治
5位	佐川 保博	23位	田村 和秀
6位	吉成 茂	24位	鈴木 邦典
7位	堀田 一彦	25位	添田四十四
8位	草野 伝明	26位	溝井 清一
9位	石井 隆士	27位	鈴木 栄
10位	原 芳之	28位	山野辺龍介
11位	佐藤 靖一	29位	岡部 稔
12位	三瓶 清司	30位	田畑 裕
13位	吉田 大二	31位	小針 啓司
14位	酒井 宏尚	32位	安部 和夫
15位	和知 一守	33位	運天 直人
16位	西牧 丈夫	34位	熊谷 行信
17位	成井 正行	35位	金田 昇
18位	中野 義照		

【第10回理事会】

1.協議事項

- (1) 新入会員の件
- (2) 女性委員会設立に関して
- (3) 5月9日卓話の件
- (4) その他

2.報告事項

- (1) 第1回クラブ協議会 (4月23日)
- (2) その他